

編集委員が
インタビュー！

表紙：働く人シリーズに寄せて

手話通訳者の方に伺いました

Q 手話を始めたきっかけは。
A 職場で、ろう者との会話をしたいと思い、手話を学び始めました。(田代)
 高校生の時に手話を学び、興味があったので、子育てが一段落した時に始めました。(戸田)
 手話講習会や手話サークルで学びながら、市の登録試験を受けました。

Q 手話通訳をするうえで、配慮していることは。
A 守秘義務を守ること、安心してろう者が依頼をすることができます。ろう者との信頼関係が大事。また、技術の研鑽、日々努力をしないとと思っています。

Q 手話通訳の難しいところは。
A 講演会・教育・医療などさまざまな現場があり、生活に直接関わるためそれぞれに難しさがあります。人と人をつなぐうえで、関係づくりや雰囲気を壊さないことに気を付けています。相手が手話に対する理解があると助かります。

Q 手話通訳のやりがいは。
A ろう者が会議などで、自分の意見を手話で積極的に出し、社会参加ができた姿を見られたときに感じます。

Q 手話言語条例に期待するところは。
A 聞こえない障がいについて理解が増えると思います。小さい頃からの体験学習が大事。市民が軽い気持ちで手話を使う環境になれば、ろう者も喜ぶのではないかと思います。



戸田さん

田代さん

議会だよりは、ふじみ野市のホームページからも閲覧できます。
 市議会の議事録も見られます。
 政務活動費も公開しています。

ふじみ野市議会

検索



12月定例会の傍聴者は118人でした。

傍聴をお待ちしています

次の定例会の
開 会 予 定: 3月1日 午前9:30~

請願締切予定: 2月17日 午前10:00

市役所4階議場で開催します

議会広報常任委員会

委員長 伊藤美枝子	副委員長 渡辺 大
委員 加藤 恵一	委員 鈴木啓太郎
委員 小林 憲人	委員 島田 典朗
委員 床井 紀範	

表紙の題字を書してくれた人
大井西中3年 佐々木魁人さん

ふじみ野



こういう体験はなかなかできるものではないのでとても良い経験になりました。

高校に進学してからも、積極的に人に役立つことをしていきたいと思います。

日の短さと寒さを感じる師走の候。
 凜と張り詰めた空気の中に、変化の胎動を感じる定例会となりました。

編集後記

本定例会では、文化財保護事業やスポーツ施設管理運営事業などの補正予算をはじめ、空家等対策の推進に関する条例や手話言語条例など、暮らしに寄り添う議案が審議されました。

とりわけ、手話言語条例は、「誰もが安心して暮らし続けることのできるまち」を実現するうえで欠かせない条例です。本条例には、市の責務や市民の役割などが盛り込まれていますので、市の窓口やホームページ等で一読いただければ幸いです。

定例会閉会后、新たなイルミネーションがまちを彩り、そこはかかない温もりがあふれ、笑顔が行き交っていました。

(小林 憲人)